

# 医療法人「七ふく会」

# 門真市に2拠点医療機関を開設

国は認知症施策「新オレンジプラン」で2025年には65歳以上の高齢者のうち、5人に1人が認知症に罹患すると発表した。

地域でも高齢化が加速するなか、先月開院したふくいクリニックに脳神経外科（もの忘れ外来）が新設された。AI搭載のMRIと16列マルチスライスCTを導入。最新機器での画像診断検査で病気の早期発見、早期治療が可能となった。ふくいクリニックと七ふくハートクリニック（旧ふくいクリニック）は、両輪で稼働。門真市での質の高い医療を提供する地域密着型の2拠点医療機関となった。

## 「地域医療に貢献する」大石哲也副院長の決意

大石哲也医師がふくいクリニックの副院長職を快諾したのは、福井政慶院長と関西医科大学の同窓という信頼関係があったことに加え、過去の病院勤務経験にある。ひとつは和歌山県新宮市医療センターで平成23年に発生した紀伊半島大水害の当事者として過酷な人命救助任務を遂行した。

もう一つは、奈良県の脳卒中専門病院。へき地医療従事者の重責を総身で担ったことにある。人手の足りない病院で、急性期から回復期まで、手術から外来をこなすハードな日々は貴重な経験となった。

幼い時から父親の転勤で外国に行く機会が多かった。異文化への複眼的視野で自主精神が自然に育まれた。自分の言動に責任を持ち、他人に頼らない。高知大学理学部生物学科在籍後、関西医科大学医学部へ進んだ時も自己決定に迷いはなかった。自分が納得して新たにチャレンジする。これらの経験を通して「地域医療に貢献するクリニック」のコンセプトに賛同。福井院長の想いを素直に受け止めた。

## 日本脳神経外科学会専門医・認知症サポート医がお手伝いします

ふくいクリニックの自社ビルには明るく広いスペースの運動療法室、落ち着いた雰囲気のある透析室が完備されている。「やりたい医療ができる設備を有効活用して、お互いの専門

スキルを発揮してより良い医療を目指すことができます」と、大石副院長は、内科、循環器、脳血管、透析と関連性の多い科を有するクリニックで、脳神経外科専門医として、三位一体で取り組む。

過去に病気をした方、血管系脳、心臓系の病气。脳卒中、脳出血、脳疾患など、病院から頼ってくる人も多い。脳卒中の後遺症での痙縮に悩む人にはITB療法資格医として相談に応じる。特に上肢・下肢の痙縮のある方にはボトックス治療の資格医として施術を行う。

「もの忘れ外来」では、認知症の疑い、認知機能の低下を早期発見に努める。「外来だけでなく在宅訪問医療で患者さんの日常生活に添う。もの忘れ症状があっても軽度認知症の方が何とか生活できるようにお手伝いします」との力強い言葉。



大石哲也副院長

医療法人 七ふく会  
**ふくいクリニック**  
内科・循環器内科・腎臓内科(人工透析)・漢方内科・  
脳神経外科・泌尿器科・リハビリテーション科  
TEL. 06-6780-9090  
〒571-0039 門真市速見町6-3  
<https://www.fukui-cl.com>

